

7月27日

テーマ：飼葉おけの救い主

聖書箇所：ルカの福音書2章1節～7節

◆今日のみことば

男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所  
がなかったからである。ルカの福音書2章7節

◆メッセージ

無事に生まれてきてくれた、小さな赤ちゃん。その顔を見て、お母さんのマリヤさんも、お父さんのヨセフさんも、どんなにうれしく、そしてどんなにほっとしたことでしょう。

ふたりは、ローマ皇帝の命令のせいで、およそ110キロメートルもの旅をしてきたのです。(あとで、おうちから110キロメートルはなれた町はどのへんか、調べてみましょう)もうすぐ赤ちゃんが生まれそうだったおなかの大きいマリヤさんには、さぞ苦しくて、心配な旅だったでしょうね。

ふたりは、すべての人のためにこの世に生まれた神のみ子・救い主イエスさまを、ふたりだけでお迎えました。とうといお方を、自分の腕の中に抱っこした気持ちはどんなだったでしょう。つらい旅も、宿屋に入れてもらえなかったことも忘れてしまう幸せを、神さまは、ふたりにくださったのです。



ローマ皇帝の命令に従って、たくさんの人々が故郷ベツレヘムに旅して来ていたので、宿屋はいっぱいでした。だから、イエスさまがお生まれになったのは、馬やロバのいるところでした。イエスさまが寝かされたのは、清潔な布団ではなくて飼葉おけ(馬やロバのエサをいれるおけ)。生まれたばかりの赤ちゃんに「いる場所がなかった」なんて、なんと気の毒なことではありませんか。だれも、あたたかくて安全な部屋を

用意してあげませんでした。でも、私たちは、そのときそこに居合わせた人たちを「冷たい、いじわるな人たち」と言うことができるでしょうか。救い主イエスさまを、そのすばらしさにふさわしく自分の心にお迎えしないなら、私たちもイエスさまを家畜小屋の飼葉おけに追いやってしまった人たちと同じではありませんか。

家の隅っこにも入れてもらえないで、家の外の暗い家畜小屋で、だれも知らないうちにひっそりとお生まれになった、イエスさま。イエスさまは、家畜小屋よりも暗くてもみじめな罪でいっぱい、私たちのところに来てくださったのです。たとえ歓迎されなくても、喜んで来てくださいました。私たちを、その罪の暗やみから、救い出すためにです。

イエスさまをお迎えしましょう。自分の心の、外ではなく、隅っこでもなく、真ん中に。

◆お祈り

「イエスさま。うまれてきてくださって、ありがとうございます。わたしのころのなかに、あなたをよろこんでおむかえします。」  
(多磨教会 間島昌枝(補教師))